

Early supported discharge and continued rehabilitation at home after stroke: 5-year follow-up of resource use. [pubmed](#) Thorsén AM J Stroke Cerebrovasc Dis. 2006 Jul-Aug;15(4):139-43.

なぜこの論文を読もうと思ったのか？

・早期退院と在宅での継続的なフォローの重要性が昨今叫ばれており、本論文でその取り組みの結果がわかると思い読もうと思った。5年間の追跡も期間が長く、貴重な情報であると考えた。

内 容

背景・目的

- ・早期退院とその後のフォローアップは重要だが、12カ月以上追跡した研究は少ない。
- ・本研究の目的は脳卒中者の5年間の機能面や生活面のアウトカムの変化を追うことである

方法

- ・83名の軽度～中等度の脳卒中者（発症から5-7日で参加の可否を検討）
- ・HRG群（在宅でのリハ）とCRG群（一般的な入院、リハビリ）の2群にランダムに分けた。
- ・両群ともに病棟での治療、リハビリテーション（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）を受け、HRGへと移行した。
- ・HRG群の介入期間はそれぞれの被験者で異なり、平均介入期間は14週間、平均介入回数は12回だった。
- ・CRG群は必要があれば外来でのリハビリを継続した。
- ・退院から1年もしくは5年経過した被験者に電話でのインタビューを実施した。

- ・アウトカム
- ・入院期間
- ・死亡した場合、退院日からの日数
- ・身体機能、活動、参加、個人因子、主観的な障害
- ・ MMSE
- ・ Lindmark Motor Capacity Assessment(LMCA)
- ・ Nine-Hole Peg Test(NHPT)
- ・ 10m 歩行テスト
- ・ Barthel ADL Index
- ・ Katz ADL Index (cooking, transportation, shopping, cleaning)
- ・ Frechay Activities Index (FAI) 社会活動の評価
- ・ Sense of Coherence Scale(SOI) 問題解決能力
- ・ Sickness Impat Profile (SIP) 主観的障害
- ・ 転倒歴
- ・ 計測はベースライン、3 か月後、6 カ月後、12 か月後、5 年後とした

結果

- ・ 1 名を除く 82 名を 5 年間追跡できた。
- ・ 5 年間のうちに 17 名の死亡があった
- ・ 入院期間は HRG 群 14 日、CRG 群 30 日と有意差があった。

・ 10m 歩行やペグの移動において、HRG 群は CRG 群より高い値を示したが、有意差はなかった。

・ 発症から 5 年後、HRG 群は皿洗い、洗濯、読書の項目で CRG 群より有意に自立していた。

・ Katz extended ADL Index（料理、公共交通機関の移動、買い物、クリーニング）において、HRG 群は CRG 群より有意に高い値を示した。

・ 発症から 5 年後、両群ともに歩行、家事、趣味やレクリエーションが障害されていると述べていた。

・ 両群とも過去 6 カ月で転倒があった被験者の割合は 60%だった。

私見・明日への臨床アイデア

・ HRG 群（早期退院と継続的なフォローアップ）は CRG 群（通常の入院期間）に比べ、IADL や趣味活動などに差が見られていた。退院後の訪問リハや通所リハなどを後押しする根拠になると思われる。

・ HRG 群の継続的なフォローは平均 3 か月だった。フォローが終了したあと、被験者たちが自宅でのトレーニングを継続していたかどうかは調査対象とはなっていない。フォローが終了した時点でトレーニングを辞めた方、続けた方で結果は違うと思われるので、今後の研究に期待したい。